



八巻歯科医院院長(神奈川県)

山口里恵 ⑩

新聞などのメディアでよく美人医師とか美人歯科医師なんて言葉が使われるが、実は私も現在、美人(?)女子大生。在学の発端は去年の3月にさかのぼる。娘の歯科衛生士国家試験合格を機に娘夫婦と別居し、なんばり独り暮らしを始めた。

「ひとりや、いいわ」と自由な独り暮らしを満喫していた。ところが半年もそんな生活を続けると、ふと、このまま私はぬるま湯に漬かり老後を迎えるのか、脳細胞は減つて行くばかりで、何かしないと孫が大きくなつた時にボケてしまうのではないか不安になつた。

毎日隣に住んでいる叔父夫婦が、晩酌と夜ご飯に呼んでくれる。要は帰つたらご飯ができるのだ。洗いものもせず、食べつけなしでまろ酔い気分で家に帰る。すべてが自由で、何をしても怒られるではない。酔つ払つてソファに寝ても怒られない。

## 美人？女子大生

かるのだ。

試験科目は英語と専門科目。60を目の前に、果たして私にできるのかと考えたが、何でも形から入る私は、真っ先に英和辞典を買いに走つた。

試験当日、会場に3冊の辞書を持ち込んだ私とは対照的に、現役の研修医は電子辞書。この

時代の差は何なのだろう。入学式でも付き添いの母親に間違えられたが、見事、学生証を強したいと思っていた私はこれしかないと考え、教授に相談する。入学試験があるの。やはり一つのことを始めようと思うと、そこには山が立ちはだかる。

第一、第三の人生の始まりである。学食、サークル、合コンなど……頭の中で、数十年前のバラ色の時間がよみがえつた。しかし、現実は毎週木曜日の18時からの講義を受けるというもので、1日目に「研究課題は、決まっているか」という大学院科長の問い合わせに、ふらちなバラ色の夢を追つていた私は返す言葉もなく暗黒の闇に落ちて行つた。

この4年間で何か目標を決

め、論文なるものを書かなければならぬ。甘い夢は、はるか彼方に。しかし負けてなるものかと里恵ばあさんの戦いは続く。